

大久野通信 vol.28

ホタルの里



新年おめでとうございます。気付けば大久野通信も 3 年目、時の経つのはあっという間です。大久野倶楽部の活動拠点は、東京都ですが都心より気温が 2 ～ 3℃低く、土木作業で体を温めるには最適の季節です。この冬は、美しい水辺を復活させるべく沢の整備に挑んでいます。水面を埋め尽くす烏瓜や熊笹などの自生植物を取り除いてみると、沢蟹たちが姿を見せたりセリが群生していたりと、清澄な水辺の特徴が姿を現しました。美しい里山の風景に、また一歩近づけた気がします。

INDEX

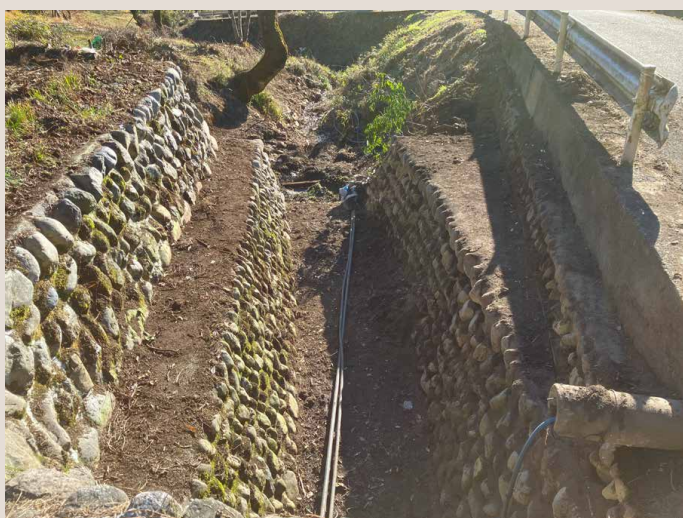
- ・ 沢整備の先に
- ・ 年末恒例のイベント
- ・ 今後の展望

沢整備の先に

活動拠点に流れる小さな沢。嘗てはそこそこの水量だったのですが、伐採されずに大きく育った杉が山の地下水を吸い上げてしまうので、いまは僅かに流れている程度です。林業衰退で手付かずとなった杉林の影響は、こんなところにも現れています。地元の方曰く、昔は夏になるとホタルが飛んでいたそうです。その餌となるカワニナが生息する水辺には、きれいな水を好むセリなどの植物が茂っており、生き物が生息している特徴が有ること。水量の問題はありますが、姿を現した沢にはホタルの生息条件が揃っています。つまり、整備を進め美しい水辺を復活させた先に、ホタルの里を目指すのも突飛な考えではなさそうです。



整備前



整備後

年末恒例のイベント

大久野倶楽部の活動拠点では、毎年師走に餅つきイベントを実施します。もち米は、旧日の出三六会の有志の方々が水田を借りて栽培しています。大久野倶楽部メンバーも、田植えや稲刈りに参加しました。刈り取り直前に 2/3 程度の稲穂が鹿の餌食になり、半分以上は外部調達で補うことはなりましたが、老若男女総勢 30 名ほどが入れ替わりで餅をつき、今年も大盛況イベントとなりました。杵と臼を使った餅つきはいまや貴重な体験なので、未来を担う子供たちの記憶に残ってくれたら嬉しいです。また、収穫した大根で即製のキムチ作りも行いイベントを盛り上げました。大量の大根の中に艶めかしい個体が混じっており、笑いも提供してくれました。



餅つきイベント



即製の大根キムチ



セクシー大根

今後の展望

活動拠点では竹炭作り、沢の整備、植物たちの残骸処分など、新年早々より精力的に取り組んでいます。自生植物が繁茂する夏場に整った感のある里山を目指すには、芽吹きの子節までが勝負なのです。去年は、伐採後に放置されていた竹にフルボ酸を含む黒い液体が溜まっていることを発見しました。竹取物語のかぐや姫は、実はこういった不思議な竹からの恵みのことだったのかも知れませんね。この黒い液体がこういったメカニズムで生まれるのか、現在解明に取り組んでいます。また、沢にわさび田ならぬ竹田を整備して、1 m 程度に切断した竹を並べ天然水の中でエイジングさせてみようとも考えています。「ホタル舞う 沢が育む かぐや姫」、大久野倶楽部です。